

## (熊本県立東稜高等) 学校 令和3年度(2021年度) 学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>
心身を鍛え 節度を重んじ 知能を磨き 徳性を涵養し 国家社会の有為な形成者を育成する

<b>2 本年度の重点目標</b>
1 生徒指導の充実(生活習慣の確立、規範意識の醸成、自己効力感の向上、職員間連携)
2 学習指導の充実(教科の専門性の向上、実践的授業力の向上、自学力の育成)
3 進路指導の充実(系統的指導の充実、自己実現のための基盤づくり)
4 学校環境の整備(物的環境の整備、人的環境の整備)
5 豊かな人間性の涵養(個性の伸長、多様性の理解と共生、読書の習慣化)

【A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である】

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校改革の推進	本校教育に対する生徒・保護者の満足度の向上	評価アンケート「入学に関する意識項目」上位評価割合80%以上[生徒]、80%以上[保護者]	・各分掌部、学年、管理職間のコミュニケーションによるチームワークの向上 ・職員間の学び合いの機会の増加と各種指導力の向上	B	学校評価アンケート「入学に関する意識項目」(生徒)上位評価割合が73%、同(保護者)が87%という結果となり、保護者の学校への満足度は目標を達成できたが、生徒のそれが達成できなかった。日頃の生徒との関わりを持つ時間の確保のために、なお一層の業務改善に努めたい。また生徒との関わり方について平素より職員間で学び合う機会の創出や雰囲気醸成に努めたい。
	業務改善・働き方改革	業務の適正化	時間外勤務の縮減 (目標値：前年同月比超過勤務時間平均の2%減/全体)	・土曜授業の廃止 ・超過勤務時間の削減目標の設定 ・業務の整理、削減	B	業務の平準化やノー残業デー、マイタイムの実施など、時間外勤務の縮減に対して積極的に対策を講じることができたが、思ったほどの縮減には繋がらなかった。
	開かれた学校づくり	本校教育に対する保護者の理解、関心の向上	評価アンケート「学校、家庭の連携、意思疎通に関する意識項目」上位評価割合90%以上[保護者]	・Classi や安心メールを活用した学校、生徒、保護者3者間の情報共有と連携推進	C	学校評価アンケート「学校、家庭の連携、意思疎通に関する意識項目」(保護者)上位評価割合90%以上が目標であったが、結果は85%で目標を達成できなかった。はっきりと

		本校教育に対する地域住民、中学校生徒・保護者の理解、関心の向上	評価アンケート「保護者・地域及び中学校への情報発信」上位評価割合90%以上[保護者各学年]、[生徒・地域及び中学校への情報発信]上位評価割合90%[生徒]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校HP更新の迅速化と更新頻度の増加によるHP閲覧数の増加</li> <li>・学校HPの活用</li> <li>・東稜ニュースの発行と配付</li> <li>・情報プラットフォームを活用した情報発信</li> </ul>	A	<p>した要因が不明であり、要因分析を行いたい。</p> <p>学校評価アンケート「保護者・地域及び中学校への情報発信」(生徒及び各学年、保護者)上位評価割合90%以上であったが、結果は生徒93%(1年93%、2年93%、3年91%)保護者90%で目標を達成できた。頻繁なHP更新や積極的な中学校への広報活動が主な要因と言える。</p>
学力向上	授業を主体とした学力向上の取組	授業改善と授業の充実(各教科共通の授業技術と教科の専門性の向上)	評価アンケート「授業に関する評価項目」最上位評価割合20%以上[生徒]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東稜スタンダードの策定と活用とブラッシュアップ</li> <li>・公開授業の厳格かつ効率的実施</li> <li>・生徒授業評価アンケートデータ、職員の授業相互評価データ、学習時間データ、成績データなどのクロス分析</li> </ul>	A	評価アンケート「授業に関する評価項目」最上位評価割合が28%と目標を上回った。また、各項目4段階評価の総合ポイントも、令和元年度が3.02ポイント、令和2年度が3.13ポイント、本年度が3.18ポイントと、徐々に向上しており、様々な取り組みの成果が着実に結実してきていると言える。
	自学力の醸成	生徒自らが学ぶ姿勢の確立及び学びの力の向上	宅習時間の増加(目標値:全学年過去5年間の平均宅習時間当該学年比5%増加)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Classiを利用した宅習時間調査による学習状況の把握と調査結果の活用</li> <li>・Classiの個別コメント欄に複数の職員が記入することによる宅習状況の個別指導</li> <li>・与える課題の工夫・検証、事後指導の充実</li> </ul>	B	1年生で19.1%増、2年生で11.9%減、3年生で6.7%増という結果になった。新型コロナウイルス感染症の影響による自粛要請、休校やリモート授業等、昨年度に引き続き落ち着いた学習環境にあるとは言えないが、一人一台端末配備を活用し、宅習時間の増加を図りたい。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	キャリア意識の向上と意欲的なオンラインを活用した体	・今年度のインターンシップは、コロナウイルス感染の危険性を考	・来年度にインターンシップを実施できるか、学年部と相談して準備す		項目3「進路について日ごろから考えており、わからない点は資料を調べたり、先生に聞くようにしている。」

		<p>験学習への参加</p>	<p>え実施しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインオープンキャンパスへの積極的参加、オンライン夢ナビの大学動画配信を利用して、進路意識の向上を図る。目標は、学校評価アンケート「進路意識、進路活動、職員への進路相談」上位評価割合 70%以上[生徒]</li> </ul>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスの積極的広報と積極的参加の推奨</li> <li>・総合的な探究の時間の再編、週一回の情報ウォッチング内容向上により進路学習の充実を図る。</li> <li>・新調査書の進路諸活動記録のポートフォリオ化を促進する。</li> </ul>	<p>B</p>	<p>の肯定的回答は 73%と 3 年生は 80%を超えており 1・2 年生の割合が 70%弱と低い。コロナ禍の影響で、インターンシップが中止となったり、オープンキャンパスへの参加ができなかったりと日ごろから進路について考える場面が少なかったと考える。また、3 年生の進路室利用は多いが、1・2 年生の進路室利用は少なく、今後、1・2 年のうちから進路室を利用する習慣をつけたい。項目 4「進路のしおり」等、学校から配布される進路資料は活用しやすい内容となっている」は肯定的回答は 82%と生徒が資料読んだり、先生方が授業や HR 活動で利用するという状況があった。しかし、職員の進路に対する項目への肯定的回答割合が 60~70%と少なく、職員の意識向上の必要性を感じる結果であった。</p>
進路目標の達成	<p>生徒を集団と捉える指導と個に応じた組織的な進路指導</p>	<p>熊大等の大学進学者を複数出すことと国公立大合格 50 名以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊大等の国公立大学や難関関東私大を合格 3 名以上</li> <li>・県内国公立大学合格 23 名以上（熊本大学 3 名以上、熊本県立大学 20 名以上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路希望、適性等についての職員共通理解の促進</li> <li>・進路行事の精選、時間割クラス編成を工夫し効果的課外実践</li> <li>・各学年部と進路指導部の先生方のタイアップにより、数年先を見越した高学力生徒の学力保障</li> <li>・二者面談、三者面談の充実</li> </ul>	<p>B</p>	<p>現在、学校推薦型選抜や総合型選抜で国公立大学に合格している生徒は 15 名。うち国立大学 6 名、公立大学 9 名。（熊本大学 1 名、熊本県立大学 8 名） なお、共通テストを利用した入試結果がすべて判明するのは 3 月中旬である。</p>	
生徒	規 範 意	東稜高校 5	・評価アンケ	・部活動時間確		・「決まった時間の運

指導	識に関する指導の充実	つの行動目標を基本とした規範意識の育成	ート「決まった時間の運動、勉強」上位評価割合85%以上[生徒] ・評価アンケート⑩「交通ルール」⑪「言葉遣い」⑫「服装・挨拶」各項目の上位評価割合95%以上[生徒] ・特別指導件数の削減(目標値:前年度減)	保、下校時間の定着、家庭でのスマホ利用の改善 ・服装頭髪指導、交通指導、校則指導の徹底 ・ホームルームや授業を通しての挨拶指導等の徹底	B	動、勉強」上位評価割合は82%であった。目標値は下回ったが、昨年より向上している。放課後の時間の使い方や家庭学習時間の確保が課題である。 ・⑩「交通ルール」98%、⑪「言葉遣い」98%、⑫「服装・挨拶」94%であった。ほぼ目標値を達成した。しかし、生徒の意識の高さと実態に乖離がある。 ・特別指導件数は3件であり、前年度と同様であった。定期考査における不正行為が続いており、今後も注意が必要である。
	情報モラル教育の充実	・スマートフォンの適切な使用(使用時間含む) ・不適切な使用で起こる危険性の理解	・平日のスマホ使用時間1時間未満の生徒の増加(目標値:全校生徒の40%以上) ・校内での不適切な使用で指導される生徒数の学年進行での減少	・情報モラル教室、職員研修の実施 ・実態調査アンケートの実施と携帯・スマホ宣言との比較 ・他分掌との連携による対策(スマホ通信の発行・スマホダイエットの実施)	A	・学校評価アンケート「情報モラル」(生徒)に関する項目で、最上位評価項目34%、上位評価項目91%となり、モバイルの適正利用の推進に関して、他部署と連携して取り組むことが出来た。その取組で、文部科学大臣表彰を受けた。
	交通安全教育の徹底および充実	・交通法規の遵守及びマナーの育成 ・交通事故防止のための危険予測能力の育成 ・自転車盗難対策 ・単車通学生に対する指導の充実	・交通事故件数の削減(目標値:年間35件未満) ・二重ロック率の向上(目標値:平均施錠率95%以上)	・危険箇所での交通指導の充実 ・交通講話の計画・実施 ・定期的な二重ロック点検の実施 ・単車通学生実技講習会・単車通学生集会の実施 ・単車通学生違反者指導の充実	B	・交通事故は33件(自損事故を含む)発生。件数としては前年度と同数であるが、救急搬送された事故も発生している。交通マナー等に関して外部から厳しい声も多い。 ・二重ロックは98%程度の施錠率。 ・単車実技講習会、単車通学生集会を行ない、交通安全の啓発を行った。
	生徒の自主性の涵養	自主的・主体的な活動	学校行事やボランティア活動への	・ボランティア活動による奉仕の精神の	・学校行事、部活動の意義の理解と自己効	

	の推進	積極的参加	育成。(目標値：参加者数昨年度比75%以上、延べ250名以上) ・生徒会を中心とした生徒主体の取り組みの確立	力感を高める取り組みの実施 ・生徒会、各種委員会活動の充実 ・ボランティアの場の提供	B	祭)が中止を余儀なくされた。クラスマッチは感染対策を行ない実施でき、クラスの一体感が高まった。 ・生徒会、風紀委員会、保健委員会、図書委員会で連携したスマホダイエット等の活動が文部科学大臣賞を受賞。 ・ボランティア活動は多くが中止となった。校外のボランティアには47名が参加した。生徒会企画のボランティア活動の開催検討。
人権教育の推進	人権尊重の精神に立った学校づくり	知的理解を深め人権感覚を育成する指導の推進	・教職員の基本的認識の深化と実践的指導力の向上 評価アンケート「HR、授業にける人権教育指導」上位評価割合95%以上[職員] ・生徒の知的理解と人権感覚の向上 評価アンケート「人権教育における学び」上位評価割合90%以上[生徒]	・人権教育職員研修の実施 ・教職員の振り返りチェックの実施 ・人権教育LHRの実施 ・「人権だより」の発行 ・人権が尊重される授業づくりの推進	C	・教職員のアンケート上位評価割合は、94.9%で目標を下回った。目標には達しなかったが、昨年度の数値94%を上回っていることから、教職員の振り返りチェックを実施したことにより、自らの人権感覚を磨き、生徒に人権の大切さを伝える意識は向上していると言える。 ・生徒のアンケート上位評価割合は、89%と目標を下回った。目標達成に至らなかった理由としては、新型コロナウイルス感染拡大による分散登校期間に予定していた人権教育LHRを実施できなかったことが要因にあると考えられる。
	人としての在り方・生き方に対する自覚の深化	互いを尊重し、良好な人間関係を構築するための生徒の意識の向上	・人間関係の課題を受容し、協働で解決する能力を備えた集団の育成 評価アンケート「クラス雰囲気有意義な学校生活」上位評価割合93%以	・生徒の交流を促す生徒会を中心とした学校行事の実施 ・SST(ソーシャルスキルトレーニング)の実施	C	アンケート上位評価割合は92%で目標を下回った。目標達成に至らなかった理由としては、新型コロナウイルス感染拡大のため、SST(ソーシャルスキルトレーニング)の多くが中止となり、クラスの間人間関係作りが十分できなかったためと考えられる。

			上[生徒]			
いじめの防止等	命を大切に する心を 育む	心のきずな を深める教 育の充実	生徒の自他を 大切にする心 の涵養 評価アンケー ト「クラス雰囲気 有意義な学校 生活」の上位 評価割合93% 以上[生徒]	・いじめ防止教 育LHRの実 施 ・心のきずなを 深めるための 標語作品募集 ・心のきずなを 深めるための 標語優秀作品 の紹介	C	アンケート上位評価割 合は92%で目標を下 回った。昨年度の数値 と同じであるため、心 のきずなを深めるた めの標語作成や優秀 作品に触れさせるこ とで、自他を大切に する心を育むようさ らに推進していきたい。
		いじめの未 然防止及び 早期発見・ 早期解消	評価アンケー ト「いじめに あった経験」 経験ありの割 合10%未満 [生徒]	・心のアンケー トの実施(年3 回) ・心のアンケー トを通して、い じめを訴えた 生徒の把握と 迅速な対応	D	「いじめにあった経 験」経験ありの割合 は18%で目標の10% 未満を大きく上回 った。目標達成に至 らなかった理由とし ては、新型コロナウイルス 感染拡大のため、ク ラス内での交流が減 少し、言葉の誤解や 気持ちのすれ違いか ら人間関係のトラブ ルが増加したためと 考えられる。
地域連携(コミュニ ティ・スクール など)	防災教育	生徒・保護 者・職員の 防災に対す る意識の向 上	評価アンケー ト「防災教育 の積極的な実 施」上位評価 割合95%[生 徒]、93%[保 護者]、83% [職員]の維持	・防災通信2回 発行 ・生徒防災委員 会の定期的活 動 ・防災LHRの 各学年職員と 生徒防災委員 の事前研修の 実施	B	・避難訓練の事前活 動として、消火器の 配置場所の確認を 生徒防災委員で行 った。また、宮崎 県飯野高等学校の 防災士資格取得済 みの生徒とのオン ライン交流を行 った。 ・防災に関する積 極的な実施(生徒 93%、保護者 84%、職員 72.8%) ・地震災害棟の災 害時に取るべき行 動の理解(生徒 97%) 目標値に達してい ない項目もあった が、コロナ禍で活 動が制限される中 で最大限の活動を 行った。
		防災教育・ 避難訓練の 内容の充実	評価アンケー ト「災害時の 適切な行動の 理解」上位評 価割合95% [生徒]、85% [職員]の着実 な維持	・防災教育・避 難訓練の内容・ 方法の再検討	B	・防災教育・避難 訓練は雨天時の日 程に変更した。ま た、感染予防のた め通常の前定を変 更して行った。1学 年「避難所開設支 援訓練」消防署よ り実演指導、2学 年「避難時の

						コミュニケーション」 jamboard を活用、3 学年「避難所ケース学習」
	学校運営協議会	本校の教育活動について協議し、提言を行う	・学校評価について、協議会で審議する。 ・スクールミッションについて協議会で審議する。	・協議会の委員を、地域代表・地元中学校長・有識者・保護者代表・本校校長とする。	B	新型コロナウイルスの感染拡大により、3 回中 2 回が書面による実施となったが、有意義な提言を頂くことができた。
コースの特色	国際コース	語学や異国文化、国際的関心の深化	評価アンケート「国際コースの特色を活かした授業や活動の実施」 上位評価割合 80% 以上 [国際コース生徒・保護者]	・台湾永平高級中学校の生徒とのオンラインによる交流 ・各種研修プログラムの活用 ・資格試験の受験奨励・対策	B	台湾に加え、オーストラリアや香港の生徒たちとオンラインによる交流を実施することができた。イングリッシュキャンプの代替となるグローバルコミュニケーション研修においては生徒の評価が非常に高く、有意な研修ができた。オンライン研修や交流の方法をある程度確立することができた。
	理数コース	自然科学や社会における産業技術等への探究	評価アンケート「理数コースの特色を活かした授業や活動の実施」 上位評価割合 80% 以上 [理数コース生徒・保護者]	・学校設定科目「科学研究」の充実 ・大学の出前講義等による科学への興味・関心の高揚 ・科学系コンテストや研究発表会、数学検定等への参加の奨励	B	評価アンケートは生徒、保護者ともに上位評価割合が 88% で目標を達成できた。サイエンスキャンプ等による大学の模擬授業の実施、検定やコンテストへ参加できた。科学研究については他校の課題研究と同じように中間発表・最終発表を実施することにより、各班の研究内容の充実を図ることができた。
生徒理解・教育相談・特別支援教育	生徒の理解および支援の充実	生徒の理解や支援における職員間の連携強化	評価アンケート「生徒理解のための職員間の連携」 上位評価割合 90% 以上 [職員]	・支援を要する生徒について、担任・学年主任、教科担任、部活動顧問、関係分掌からの情報収集 ・支援対象生徒に関わる職員で形成するチーム会議における情報の共	C	アンケート上位評価割合は 88.1% で目標を下回った。目標達成に至らなかった理由としては、特定の支援対象生徒に集中して手をかけすぎてしまい、支援が必要なその他の生徒に関係する職員間の連携が十分にできなかったことが考えられる。

		教育相談や特別支援教育に関する教員の資質向上	評価アンケート「支援や配慮を要する生徒に係る研修」上位評価割合90%以上[職員]	有と支援分担の確認 ・校内研修を年2回開催 ・校外研修案内の周知と受講促進	C	アンケート上位評価割合は86.4%で目標を下回った。目標達成に至らなかった理由としては、新型コロナウイルス感染拡大のため、校外研修の受講機会が減少したことが考えられる。
健康教育	生活習慣の確立	特に、食生活において三食摂取し、バランスのよい食生活を心がけているか。	評価アンケート「朝食の摂取と食生活のバランス」上位評価割合90%以上[生徒] 評価アンケート「三食の摂取と規則正しい生活」上位評価割合90%以上[保護者]	・朝食の重要性、また栄養バランスと学習や運動能力の関係などを保健だよりに掲載する。	B	「朝食の摂取と食生活のバランス」については、保健だよりで広報すると共に家庭科・保健の授業においても指導することにより生徒評価目標値90%を達成。また、保護者評価目標値90%も併せて達成した。
	心身の健康や安全に関する十分な指導	新型コロナウイルス感染症防止対策ができていますか。	評価アンケート「心身の健康や安全に関する十分な指導」上位評価割合92%以上[生徒]	・保健委員が校内放送及び保健だよりを通じて広報活動を行う。	B	保健委員が昼食時に校内放送で定期的に放送し、新型コロナウイルス感染症防止対策を呼びかけた。また、検温チェック票での健康管理を行った。
	安全管理体制の確立	施設は安全であると安心できるか。	評価アンケート「施設は整備・点検されていて安全」上位評価割合90%以上[生徒]	・安全点検を昨年度より早期に行い、緊急度の高い事柄から改善を行う。	C	新型コロナウイルス感染症の影響により整備・点検が定期的にできず、目標値を下回った。(86%)
		緊急時の対応が確立されているか。	評価アンケート「緊急時の安全確保のための役割自覚」上位評価割合が90%以上[職員]	・職員研修として「救急救命講習会」を実施及び生徒理解研修において、個別の対応を確認する。	C	「緊急時の安全確保のための役割自覚」評価目標値を下回ったが、今年度は「救急救命講習会(職員)」を実施できた。また、「生徒理解研修」では個別対応の確認はできた。
環境教育	整理整頓、清掃の促進	整理整頓及び清掃を意識し、毎日、掃除に取り組んでいるか。	評価アンケート「掃除への取組」上位評価割合が92%以上[生徒]	・委員会活動による環境掃除チェック及び掃除時間以外での清掃活動を行う。	B	環境掃除チェックを実施したことで、清掃活動の意識が高まり、目標値を上回ることができた。(97%)



	環境教育の充実	環境問題を意識した行動をとることができているか。	・学校版 ISO の目標を掲げる。また、照明・エアコンのスイッチを利用していない時には、必ず切る。	・環境美化委員だよりも、環境資源問題などを掲載し、電気の無駄使いを少なくする。	B	教室等での学校版 ISO 目標を掲げることはできたが、環境美化委員が作成する委員会便りが発行できなかった。しかし、生徒保健委員会がトイレットペーパーの芯と包み紙を回収する活動を行い、ゴミとして捨てるのではなくリサイクルへ回した。
図書館教育	読書センターとしての機能充実	読書習慣の確立	貸出冊数の増加(目標値:生徒一人あたりの年間貸出冊数 3.4 冊以上/年)	全職員の共通認識の下での朝読書指導	B	1 年生を対象に図書館オリエンテーションを行い、生徒アンケートでも 1 年生の 41% が図書館をよく利用していると答えた。コロナ禍による分散登校の時期もあったが朝読書も全クラスで行うことができた。生徒一人あたりの貸出冊数は現在 4.0 冊と目標を上回った。青少年読書感想文全国コンクール県審査には 2 年生が佳作となった。
		生徒、職員が利用しやすい読書センターとしての図書館づくり	図書館来館者の増加 (目標値:年間来館者 3,000 人以上)	・図書館報(年 2 回発行)、図書館だより(年 8 回発行)による読書啓発 ・図書館内の装飾や館外掲示による誘い ・上映会・企画展示等図書委員会活動の活性化と企画の充実	B	分散登校の時期もあったがこれまでの来館者は 5,393 人であった(1 月 25 日現在)。社会に目を向けさせる話題の映画やその関係図書の紹介、教科と連携しての読書案内など生徒の意識啓発につながる展示を工夫した。東稜ライブラリーシネマを実施し、感染対策に留意しつつ生徒の自主的運営と視聴後に参加者同士で意見交換とができ、新たな図書館利用者の開拓に繋がった。読書週間には図書委員会による図書館クイズを行い、図書館に足を運ぶきっかけづくりを行った。文部科学大臣賞を受賞した IPA 情報

						モラルセキュリティコンクールではスマホ依存に関する書籍案内などを図書委員が行い、受賞に貢献した。
学習センターとしての機能充実	各部、各学年、各教科との連携	図書館利用授業時数の増加(目標値:年間60時間以上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的、組織的に蔵書バランスに配慮した選書の継続</li> <li>・部、学年、教科と連携した必要資料の事前準備</li> <li>・学級文庫設置</li> <li>・(各分野ごとの)ブックリスト学級配布</li> <li>・レファレンス充実</li> </ul>	B	<p>図書館利用授業は12月時点で56時間。図書館の窓は教室のように開けることはできないので、感染予防のため注意する必要があるが、パーティションを増やすなど工夫している。また、進路等他の部署と連携して必要資料の準備に当たった。大学入試のリモート受験があり、本校図書館を貸切にして、受験生をバックアップし、合格に繋げることができた。3年生各クラスには分野別ブックリストを配布した。1・2年生にはそのリストをわかりやすくしたリストを配布した。</p>	
	生徒、職員が利用しやすい学習センターとしての図書館づくり	テーマ展示コーナーの充実(年間12回以上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考査前1週間の開館時間延長</li> <li>・図書館終礼</li> <li>・机配置の工夫</li> <li>・感染症予防</li> </ul>	B	<p>テーマ展示は14回、考査前に限らず開館時間を延長して生徒の学習の場となった。館内のレイアウトを変更し、学習スペースを拡充した。評価アンケートによれば、3年生の利用は「よく利用する」または「おおむねよく利用する」生徒がこの3年間で最高の50%であった。感染症対策として、毎日の机・ドアノブの消毒、入退館時の手指消毒、常時換気、隣りの人と席を空けて座る表示・飛沫防止パーティションの設置を行った。</p>	
アーカイブズセンターとして	東稜高校の歩みを語る貴重な歴史資料の収	・東稜高校アーカイブズを開館し、アーキビスト又は	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係部署との連携</li> <li>・アーカイブズイベントの開</li> </ul>		日本の高校初の「アーカイブズ委員会」が設置された。文化祭から12月まで「東稜高校	

	ての機能充実	集・保存・活用	館長を置く。 ・東稜高校アーカイブズ規程の策定	催 ・生徒図書委員会の活動活性化	A	アーカイブズ」の展示を行い、授業等でも活用した。評価アンケートによれば、「誇るべき校風・伝統づくりに努力している」に「よく当てはまる」と回答した生徒が1年生で過去三年間徐々に増えている。開校当初のビデオテープを救出し、学校の歴史をたどり、未来に向けた映像作品を作成中である。図書委員アーカイブズ班がSDGsの取り組みにも通じる自然環境保持に配慮した歴史資料保存活動を行っている。
--	--------	---------	----------------------------	---------------------	---	---

#### 4 学校関係者評価

- ・施設・設備について、特にネット環境が充実しており、ICTを活用した教育に対しても積極的で、評価できる。
- ・いじめの問題について、相当なエネルギーを要する事案が増えてきている。コロナ禍でSSTの取り組みが十分に実施できず、苦慮されていると思う。学校が担うべき業務の多様化、複雑化が課題である。そこを変えないと、教育現場の根本的な課題解決はできないと思う。
- ・コロナ禍の中で学校運営を行うのは、大変な苦勞があると思うが、様々な工夫を取り入れて努力されていると思う。
- ・「学力向上」の「授業を主体とした学力向上の取組」に関する評価がAになっていることが良い。先生が授業改善に努力し、それに応えて生徒も努力するという好循環が生まれている結果ではないかと思う。
- ・「学校評価表」と「学校評価アンケート結果」との関連がわかりづらいので、工夫が必要だと思う。

#### 5 総合評価

##### 【重点目標（5項目）評価】

(1) 生徒指導の充実（生活習慣の確立、規範意識の醸成、自己効力感の向上、職員間連携）

評価項目数計[8] A[1]B[6]C[1]D[0]

本重点目標に関する取組においては、8項目中7項目で目標が達成できている。規範意識、情報モラル、交通安全、自主的・主体的活動、生活習慣、心身の健康に対する意識に関連する取組が評価できる一方で、生徒理解や支援の充実に関する項目において評価が低くなっている。

【関連小項目：評価】※（）内は大項目名

「規範意識に関する指導の充実：B、情報モラル教育の充実：A、交通安全教育の徹底および充実：B（生徒指導）」「自主的・主体的な活動の推進：B（生徒の自主性の涵養）」「生徒の理解及び支援の充実：B・C（生徒理解・教育相談・特別支援教育）」「生活習慣の確立：B、心身の健康や安全に関する十分な指導：B（健康教育）」

(2) 学習指導の充実（教科の専門性の向上、実践的授業力の向上、自学力の育成）

評価項目数計[2] A[1]B[1]C[0]D[0]

取組2項目でほぼ目標が達成できている。学力向上の取組においては、「授業の分かりやすさ」のアンケート項目の評価が向上している。

【関連小項目：評価】※ () 内は大項目名  
「授業を主体とした学力向上の取組：A、自学力の醸成：B（学力向上）」

(3) 進路指導の充実（系統的指導の充実、自己実現のための基盤づくり）

評価項目数計[2] A[0]B[2]C[0]D[0]

取組2項目全てで目標が達成できている。コロナ禍の中でオープンキャンパスやインターンシップなど、参加が難しいものがあった。

【関連小項目：評価】※ () 内は大項目名  
「キャリア教育の充実：B、進路目標の達成：B（キャリア教育・進路指導）」

(4) 学校環境の整備（物的環境の整備、人的環境の整備）

評価項目数計[10] A[1]B[6]C[3]D[0]

取組10項目中7項目で目標が達成できている。学校改革の推進、防災教育、学校運営協議会、整理整頓、環境教育の充実に関連する取組が評価できる一方で、開かれた学校づくり、安全管理体制の確立の項目で目標を到達できていない。

【関連小項目：評価】※ () 内は大項目名  
「学校改革の推進：B、開かれた学校づくり：C・A（学校経営）」「防災教育：B・B、学校運営協議会：B（地域連携・コミュニティ・スクールなど）」「安全管理体制の確立：C・C（健康教育）」  
「整理整頓、清掃の促進：B、環境教育の充実：B（環境教育）」

(5) 豊かな人間性の涵養（個性の伸長、多様性の理解と共生、読書の習慣化）

評価項目数計[11] A[1]B[6]C[3]D[1]

取組11項目中7項目で目標が達成できている。コースの特色、人権教育、図書館教育に関連する取組が評価できる一方で、人権尊重の精神に立った学校づくり、人としての在り方生き方に対する自覚の深化、命を大切にすることを育むに関連する項目で目標を達成できていない。

【関連小項目：評価】※ () 内は大項目名  
「人権尊重の精神に立った学校づくり：C、人としての在り方・生き方に対する自覚の深化：C（人権教育の推進）」「命を大切にすることを育む：C・D（いじめの防止等）」「国際コース：B、理数コース：B（コースの特色）」「読書センターとしての機能の充実：B・B、学習センターとしての機能の充実：B・B」  
「アーカイブズセンターとしての機能充実：A（図書館教育）」

## 6 次年度への課題・改善方策

評価項目全33項目中、目標が達成できたのは25項目（76%）、達成に至らなかったのは8項目（24%）であり、昨年度の目標が達成できた（61%）、達成に至らなかった（39%）から改善された。しかし、目標が達成できた25項目の内訳はAが4項目、Bが21項目であり、Aの項目が少ないのが課題である。次年度は、目標が達成できた項目の内半分がAになるよう務めたい。

学校評価アンケートの前年度との比較は、生徒では33項目中20項目（73%）、保護者では32項目中17項目（53%）、職員では33項目中13項目（39%）で保護者は前年度を大きく上回っている。保護者の評価が前年度を大きく上回っているのは、昨年度がコロナ禍1年目で評価を大きく下げたため、その反動だと思われる。一方、生徒及び職員の評価が前年度を下回ったのは、コロナ禍で思うように教育活動ができなかったためだと思われる。